

グルーミング概論・実習Ⅲ

(授業概要)

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、犬の保定の仕方や扱い方等、犬に負担をかけないようなグルーミングのスキルを身に付け、ベーシックに加えて全身バリカンのスキルも身に付ける。
学生同士や犬に対しても気を配りながら実習を行うことで、周りを見ながら行動できる人物を目指す。

科	動物看護師学科	担当教員	坂本 亜由美・呉坪 静香
コース	動物看護師特進ゼミ	教員の実務経験	トリマー20年
対象年次	3年	年間単位数	5単位

目標

前期

犬に負担がかからないように短時間で1人1頭仕上げる事が出来るようになる。

中型犬・大型犬や動き回る犬の保定が出来るようになる。

カット犬種のベーシックができるようになる。

後期

ベーシックに加えて全身バリカンのスキルを身に付ける。

授業計画

- | | | |
|-----|--|----------|
| 1回 | グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボンつけ | 小型犬 110分 |
| 2回 | グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボンつけ | 小型犬 100分 |
| 3回 | グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボンつけ | 小型犬 90分 |
| 4回 | グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ | 中型犬 180分 |
| 5回 | グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ | 中型犬 170分 |
| 6回 | グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ | 中型犬 160分 |
| 7回 | グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け | 中型犬 150分 |
| 8回 | グルーミング実習(3人で1頭)体調チェック〜リボン付け | 大型犬 230分 |
| 9回 | グルーミング実習(3人で1頭)体調チェック〜リボン付け | 大型犬 220分 |
| 10回 | グルーミング実習(3人で1頭)体調チェック〜リボン付け | 大型犬 210分 |
| 11回 | グルーミング実習(3人で1頭)体調チェック〜リボン付け | 大型犬 200分 |
| 12回 | グルーミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング | |
| 13回 | グルーミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシングの復習 | |
| 14回 | グルーミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング、シャンプー、ドライイング | |
| 15回 | グルーミング実習(2人で1頭)ブードルブラッシング〜ドライイングの復習 | |

- 16回 前期試験、グルーミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング～ドライイング、耳掃除
- 17回 グルーミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング～耳掃除の復習
- 18回 試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング～耳掃除、足周りカット
- 19回 グルーミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング～足周りカットの復習
- 20回 モデルグルーミング（チワワ全身バリカン）
- 21回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 300分
- 22回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 290分
- 23回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 280分
- 24回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 270分
- 25回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 260分
- 26回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 250分
- 27回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、チワワ全身バリカン 240分
- 28回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、ダックス全身バリカン 300分
- 29回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、ダックス全身バリカン 290分
- 30回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、ダックス全身バリカン 280分
- 31回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、ダックス全身バリカン 270分
- 32回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、ダックス全身バリカン 260分
- 33回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、ダックス全身バリカン 250分
- 32回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～足周りカット、全身バリカン、顔周りカット
- 33回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～顔周りカットの復習
- 34回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～顔周りカット、尾カット
- 35回 グルーミング実習（2人で1頭）体調チェック～尾カットの復習

授業の方法

ブリーダーやモデル犬の様々な犬種を使用し実技実習を行う

教材

グルーミング用品・講義プリント(ブードルベーシックの方法、全身バリカンの方法)

評価の方法

定期試験（実技）30%、授業態度（意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%）70%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

ベーシックの手順やバリカンの手順などをレポート用紙に書き出し整理する。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップ、トリミングサロン、動物病院にて 20 年間トリマーとして勤める。
技術的な指導はもちろん、接客や看護のスキルも学生に教授することができる。

ペット関連産業概論

授業の目的・概要

本授業は、ペット関連産業の構造や現状を理解するとともに、動物に関わる専門職として必要な職業倫理と関連法規の知識を習得することを目的とする。ペット産業の市場規模や業界動向、動物病院、生体販売業、ペットショップ、各種サービス業などの特徴について学び、産業全体を俯瞰する視点を養う。また、「動物の愛護及び管理に関する法律」をはじめとする関連法規や動物取扱業制度について理解を深め、適正な動物取扱いと衛生管理の重要性を学習する。さらに、ペット関連産業が担う社会的役割や責任について考察し、愛玩動物看護師として求められる職業観と実践的な知識の修得を目指す。

科	動物看護師学科	教員	河島英二
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師 6 年
対象年次	3 年次	年間単位数	1 単位

目標

獣医療の歴史と概念、獣医療における動物看護学の理論と特徴について理解できる。

国家資格としての愛玩動物看護師の誕生への道のりを学び、動物看護の役割と概念について理解できる。

授業計画

- 1 回 ペット関連産業における職業倫理(行動倫理を含む)～ペット関連産業における責任と社会的役割
- 2 回 商取引における関連法規の概要 1
- 3 回 商取引における関連法規の概要 2
- 4 回 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法 1
- 5 回 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法 2
- 6 回 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法 3
- 7 回 ペットの飼育実態 1
- 8 回 ペットの飼育実態 2
- 9 回 各ペット産業の市場規模 1
- 10 回 各ペット産業の市場規模 2
- 11 回 各ペット産業の市場規模 3
- 12 回 ペット産業自体の市場規模 1
- 13 回 ペット産業自体の市場規模 2
- 14 回 ペット産業自体の市場規模 3
- 15 回 補講
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期期末試験返却、解説

- 18 回 ペット産業の分類 1
- 19 回 ペット産業の分類 2
- 20 回 動物病院の現状 1
- 21 回 動物病院の現状 2
- 22 回 動物病院以外のサービス業の現状 1
- 23 回 動物病院以外のサービス業の現状 2
- 24 回 生体販売業の現状 1
- 25 回 生体販売業の現状 2
- 26 回 ペットショップの現状
- 27 回 その他のペット産業の現状
- 28 回 動物取扱業制度の概要 1
- 29 回 動物取扱業制度の概要 2
- 30 回 動物取扱責任者として業務を実施するために必要な実践的知識と動物の取扱い方法及び衛生管理 1
- 31 回 動物取扱責任者として業務を実施するために必要な実践的知識と動物の取扱い方法及び衛生管理 2
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 後期期末試験返却、解説
- 34 回 国家試験対策
- 35 回 愛玩動物看護師国家試験を終えて

授業の方法

講義形式

教材

EDUWARD Press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10 巻

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、教科書の該当範囲や関連法規、ペット産業に関するニュースや資料を確認し、業界の現状や専門用語について整理する。事後学習として、授業で学んだ法制度や業界動向、職業倫理についてノートにまとめ、自身の考えを整理することで理解を深めるとともに、国家試験対策として知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

動物病院の運営実態や獣医療現場における職業倫理、法令遵守の重要性について実践的な視点から指導する

ことができる。また、ペット関連産業と獣医療との関わりや、飼い主対応、動物福祉への配慮など、現場で求められる知識や責任について具体的な事例を交えながら学ぶことが可能である。そのため、学生はペット関連産業全体の構造を理解するとともに、専門職としての役割や社会的責任について実践的に理解を深めることができる。

適正飼養指導論

授業の目的・概要

本授業では、愛玩動物看護師として求められる適正飼養の知識と指導技術を修得し、動物と飼い主のより良い生活を支援できる能力を養うことを目的とする。愛玩動物の飼養管理、疾病予防、飼育環境整備、リスクマネジメントなどの基礎知識を学ぶとともに、終末期ケアやグリーフケア、災害時の危機管理と支援について理解を深める。また、動物愛護管理法や動物取扱業制度などの関連法規を学び、適正飼養推進員の役割について理解する。さらに、過剰繁殖問題や問題行動の予防、バビークラス・キトンクラス、しつけ教室などの普及啓発活動について学び、飼い主への適切な助言・指導ができる実践力と職業倫理を身に付ける。

科	動物看護師学科	教員	石原 昌代
コース	動物看護師コース	教員の実務経験	愛玩動物看護師
対象年次	3年	年間単位数	1単位

目標

適正飼養が示す内容に基づき、動物の一生運において、予防指導、しつけ指導、日常のリスクマネジメントなど、ステージごとの適正飼養、災害時対策、終末期ケアについて理解する。

- | | | |
|----|---------|----------------------|
| 1回 | 授業について | 挨拶、姿勢、身だしなみ、所作 |
| 2回 | 愛玩動物の飼養 | 飼い主に守ってほしい7ヶ条 |
| 3回 | 愛玩動物の飼養 | 予防指導 寄生虫予防について |
| 4回 | 愛玩動物の飼養 | 予防指導 ワクチン、避妊去勢手術について |
| 5回 | 愛玩動物の飼養 | 犬、エキゾチック動物の環境設定について |
| 6回 | 愛玩動物の飼養 | 猫、エキゾチック動物の環境設定について |
| 7回 | 愛玩動物の飼養 | リスクマネジメント、応急処置 |
| 8回 | 一斉インターン | |
| 9回 | 一斉インターン | |

- 10 回 動物終末期ケア 体調管理
- 11 回 動物終末期ケア 自宅ケア
- 12 回 動物終末期ケア S P I K E Sモデル
- 13 回 動物終末期ケア グリーフケア
- 14 回 動物終末期ケア グリーフケア 実践
- 15 回 動物終末期ケア ペットロス
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験／採点
- 18 回 前期試験返却
- 19 回 災害危機管理と支援 備えについて
- 20 回 災害危機管理と支援 備え提案、支援、指導
- 21 回 災害危機管理と支援 災害時の現場活動支援、ソーニング
- 22 回 災害危機管理と支援 災害時の愛玩動物看護師の活躍
- 23 回 動物愛護管理行政 動物愛護管理法
- 24 回 動物愛護管理行政 動物取扱業
- 25 回 動物愛護管理行政 適正飼養推進員
- 26 回 適正飼養の推進 目的と活動
- 27 回 適正飼養の推進 過剰繁殖問題と対策
- 28 回 適正飼養の推進 問題行動予防
- 29 回 適正飼養の推進 バビークラス、キトンクラス
- 30 回 適正飼養の推進 しつけ教室
- 31 回 後期試験
- 32 回 後期試験／採点
- 33 回 後期試験返却
- 34 回 国家試験対策
- 35 回 総復習

授業の方法

教科書に基づく座学、実際の現場で必要な知識、実症例についてスライドと資料を用いる

教材

EDUWARD Press 1 0

評価の方法

期末試験 70%、平常点 30%（出席率、授業態度など）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

日常生活から学べる知識をチェックリストで提供

実務経験と授業科目の関係

愛玩動物看護師：動物病院では様々な家族に寄り添った指導を行う為、マニュアル通りだけではない多様な知識と実践。また、愛護活動の観点から適正飼養指導の必要性和導き方について、実経験を用いて提供する

動物愛護・適正飼養実習

授業の目的・概要

授業では、愛玩動物看護師として求められる適正飼養の知識と実践的な指導力を身に付け、動物と飼い主の生活を支援できる人材の育成を目的とする。愛玩動物の適切な飼養管理、動物福祉、疾病予防、リスクマネジメントについて学び、飼い主への提案や指導方法を修得する。また、終末期ケアやグリーフケア、自宅看護、災害時の危機管理および救護活動について理解を深め、動物と飼い主に寄り添った支援ができる能力を養う。さらに、問題行動の予防やしつけ指導、パピークラス・キトンクラスの運営を通して、適正飼養の普及啓発活動を実践し、地域社会に貢献できる愛玩動物看護師としての専門性と職業倫理を修得する。

科	動物看護師学科	教員	石原 昌代
コース	動物看護師コース	教員の実務経験	愛玩動物看護師
対象年次	3年	年間単位数	1単位

目標

ステージに添った適正飼養について、各々家族に寄り添った指導、待合教育、教室開催ができるようになる。災害危機管理支援について、愛玩動物看護師ができることを実現する。

- | | | |
|----|---------|----------------------|
| 1回 | 授業について | 挨拶、姿勢、身だしなみ、所作 |
| 2回 | 愛玩動物の飼養 | 飼い主に守ってほしい7ヶ条 提案 |
| 3回 | 愛玩動物の飼養 | 飼い主に守ってほしい7ヶ条 指導 |
| 4回 | 愛玩動物の飼養 | 動物福祉 5つの自由について |
| 5回 | 愛玩動物の飼養 | 予防指導 寄生虫予防について |
| 6回 | 愛玩動物の飼養 | 予防指導 ワクチン、避妊去勢手術について |
| 7回 | 愛玩動物の飼養 | リスクマネジメント、応急処置 |
| 8回 | 一斉インターン | |
| 9回 | 一斉インターン | |

10 回	動物終末期ケア	ペットロス、グリーフケア
11 回	動物終末期ケア	体調チェック実技
12 回	動物終末期ケア	体調チェック指導
13 回	動物終末期ケア	蘇生
14 回	動物終末期ケア	エンジェルケア
15 回	動物終末期ケア	待合グリーフケア
16 回	前期試験	
17 回	前期試験／採点	
18 回	前期試験返却	
19 回	動物終末期ケア	自宅看護実技
20 回	動物終末期ケア	自宅看護指導
21 回	災害危機管理と支援	備え指導
22 回	災害危機管理と支援	ソーニング
23 回	災害危機管理と支援	救護実践
24 回	災害危機管理と支援	救護実践
25 回	適正飼養の推進	しつけ指導
26 回	適正飼養の推進	問題行動
27 回	適正飼養の推進	ハピークラス
28 回	適正飼養の推進	キトンクラス
29 回	適正飼養の推進	しつけ教室
30 回	適正飼養の推進	チームごと教室開催
31 回	後期試験	
32 回	後期試験／採点	
33 回	後期試験返却	
34 回	国家試験対策	
35 回	総復習	

授業の方法

グループワーク、実技実践

教材

EDUWARD Press 1 0

評価の方法

期末試験 50%、実技・レポート 30%、平常点 20%（出席率、授業態度など）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

日常生活から学べる知識をチェックリストで提供

実務経験と授業科目の関係

愛玩動物看護師：動物病院では様々な家族に寄り添った指導を行う為、マニュアル通りだけではない多様な知識と実践。また、愛護活動の観点から適正飼養指導の必要性和導き方について、実経験を用いて提供する

動物医療コミュニケーションⅡ

授業の目的・概要

本授業では、愛玩動物看護師として必要なコミュニケーション能力と対人支援技術を修得し、動物医療現場において飼い主や動物医療従事者と円滑な関係を構築できる能力を養うことを目的とする。自己理解を基盤として、非言語コミュニケーション、情報伝達、ラポール形成などの基本技法を学ぶとともに、受付・電話対応・会計業務などの実務を通して接遇能力を身に付ける。また、健康管理や適正飼養、予防医療に関する飼い主指導の実践方法について理解を深める。さらに、インフォームドコンセント、チーム医療、報連相、医療安全、病院マネジメント、多職種連携について学び、専門職としての倫理観と実践的なコミュニケーション能力を修得する。

科	動物看護師学科	教員	梶 美美子
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	動物看護師歴 17 年
対象年次	3 年	年間単位数	1 単位

目標

前期: コミュニケーションスキルを活かした、院内業務の実践ができる。

後期: チームの一員としての意識を持ち、組織運営に必要なコミュニケーション能力を身につける。

授業計画

- 1 回 オリエンテーション(自己覚知)
- 2 回 非言語コミュニケーションで伝える(表情・身体の使い方)
- 3 回 正しい情報伝達(情報の優先順位)
- 4 回 ラポール形成(感覚優位・ペーシング)
- 5 回 受付業務の実践
- 6 回 入院動物の情報伝達
- 7 回 電話対応の実践
- 8 回 会計業務の実践
- 9 回 インターン実習
- 10 回 インターン実習
- 11 回 内省・セルフケアについて
- 12 回 コミュニケーション理論(リフレイミング)
- 13 回 臨床現場での飼い主指導(健康管理)
- 14 回 臨床現場での飼い主指導(適正飼養)
- 15 回 臨床現場での飼い主指導(避妊・去勢)
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験返却・解説
- 18 回 臨床現場での飼い主指導(狂犬病ワクチン)
- 19 回 臨床現場での飼い主指導(終生飼養)

- 20回 インフォームドコンセントの理解と実践
- 21回 同意書について(麻酔・安楽死)
- 22回 チーム医療における愛玩動物看護師の役割
- 23回 報道相
- 24回 動物病院マネジメントについて
- 25回 ヒヤリハット事例の検討会(グループワーク)
- 26回 ヒヤリハット事例のグループ発表(グループワーク)
- 27回 新人教育事例の検討会(グループワーク)
- 28回 新人教育事例のグループ発表(グループワーク)
- 29回 新人教育事例のグループ発表②(グループワーク)
- 30回 後期試験
- 31回 後期試験返却・解説
- 32回 動物病院のイメージアップにつながるサービスの提案
- 33回 ペット医療保険について
- 34回 動物医療と他職種連携について
- 35回 医療者グリーフケア

授業の方法

座学と実地(グループワークや発表を主に行う。)

教材

- ・EDUWARD Press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第8巻
- ・自作プリント資料(必要に応じて授業中に適宜配布していく。)

評価の方法

試験 80% 授業への参画 10% 課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内容を振り返り、出来た点・出来ていな点を書き出し、次回への改善点をまとめる。

実務経験と授業科目の関係

臨床現場での事例を授業内容に反映し、自身の経験を提供する。

動物栄養学Ⅱ

授業の目的・概要

本授業は、動物の健康維持および疾病予防・治療に必要な栄養学の知識を修得することを目的とする。五大栄養素の働きや消化・吸収・代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、犬と猫の栄養要求量や食性の違いについて理解を深める。さらに、ライフステージごとの栄養管理や各種疾患に対する食事療法、療法食の特徴、栄養評価および栄養指導について学習し、動物看護の現場で適切な栄養管理を支援できる能力を養う。栄養学を通じて動物の健康と QOL の向上に貢献できる知識と実践力の修得を目指す。

科	動物看護師学科	教員	松嶋
コース	動物特進コース	教員の実務経験	○
対象年次	3 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・五大栄養素の働きや消化・吸収・代謝の仕組みを理解し、説明できる
- ・犬と猫の食性や栄養要求量の違いを理解し、適切な栄養管理に活用できる
- ・ライフステージや疾患に応じた栄養管理および療法食の特徴を説明できる
- ・栄養評価や食事指導の基本を理解し、動物看護の現場で活用するための知識を身に付ける

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション・動物栄養学の意義
- 第 2 回 栄養と健康
- 第 3 回 五大栄養素① 炭水化物
- 第 4 回 五大栄養素② 脂質
- 第 5 回 五大栄養素③ タンパク質
- 第 6 回 五大栄養素④ ビタミン
- 第 7 回 五大栄養素⑤ ミネラル
- 第 8 回 水の栄養学
- 第 9 回 エネルギー代謝
- 第 10 回 消化器の構造と栄養
- 第 11 回 犬と猫の食性の違い
- 第 12 回 栄養要求量と栄養基準
- 第 13 回 ペットフードの分類と特徴
- 第 14 回 ペットフード表示と法規
- 第 15 回 栄養評価とボディコンディショニングスコア
- 第 16 回 前期期末試験

- 第 17 回 前期期末試験返却・解説
- 第 18 回 ライフステージ別栄養管理① 妊娠期・授乳期
- 第 19 回 ライフステージ別栄養管理② 成長期
- 第 20 回 ライフステージ別栄養管理③ 維持期
- 第 21 回 ライフステージ別栄養管理④ 高齢期
- 第 22 回 肥満と減量管理
- 第 23 回 消化器疾患と栄養管理
- 第 24 回 腎・泌尿器疾患と栄養管理
- 第 25 回 肝疾患と栄養管理
- 第 26 回 内分泌疾患と栄養管理
- 第 27 回 心血管疾患と栄養管理
- 第 28 回 皮膚疾患と栄養管理
- 第 29 回 入院動物の栄養管理
- 第 30 回 経腸栄養法
- 第 31 回 非経口栄養法
- 第 32 回 療法食の種類と特徴
- 第 33 回 栄養指導と飼い主対応
- 第 34 回 後期期末試験
- 第 35 回 後期期末試験返却・解説・国家試験対策

授業の方法

講義・軽視

教材

授業中に必要資料を配布する。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、各回のテーマに関連する教科書範囲を読み、五大栄養素や疾患別栄養管理の基礎用語を整理しておく。事後学習として、授業内容をノートにまとめ直し、栄養素の働きや臨床栄養のポイントを復習することで理解を定着させ、実践的な栄養管理能力の向上につなげる。

実務経験と授業科目の関係

臨床現場における栄養管理の実際や、疾患ごとの食事療法の選択、入院動物の栄養サポートなどについて具

体的な事例を踏まえて指導することができる。また、診療現場では栄養状態の評価や飼い主への食事指導が重要な役割を担うため、実務経験に基づいた判断基準や説明方法を学ぶことで、教科書的知識にとどまらない実践的な理解を深めることができる。これにより、動物看護の現場で即応できる栄養管理能力の育成につながる。

動物看護ゼミ演習Ⅱ/資格対策

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師国家試験合格に向けて、コアカリキュラム全領域の知識を体系的に整理し、実践的な問題解決能力を養うことを目的とする。動物看護に関連する基礎・専門科目について、模擬試験や問題演習を通じて理解度を確認し、弱点分野の把握と克服を図る。また、効果的な学習方法や学習計画の立案・実践を継続的に行い、自律的な学習習慣を身につける。さらに、国家試験で求められる知識の定着だけでなく、臨床現場において必要となる総合的な判断力や応用力を養い、愛玩動物看護師として求められる専門性と職業意識を高めることを目指す。

科	動物看護師学科	教員	三輪 喬太 市川 華香
コース	動物看護師特進ゼミ	教員の実務経験	獣医師 8 年 愛玩動物看護師 7 年
対象年次	3 年	年間単位数	8 単位

目標

- ・愛玩動物看護師国家試験の出題範囲について体系的に理解し、説明できる。
- ・模擬試験や問題演習を通じて自身の課題を分析し、継続的な学習計画を立案・実践できる。
- ・各専門分野の知識を関連付けて理解し、国家試験レベルの問題を解答できる。
- ・国家試験合格に必要な知識・判断力・学習習慣を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる。

授業計画

【前期】

第1週 国試概要・全体スケジュールの確認、勉強方法について

第2週 第1回模試 / 解説

第3週 愛玩動物学（犬、猫、鳥）

第4週 愛玩動物学（エキゾチックアニマル、使役動物、動物の基本的な扱い方）

第5週 国試勉強方法の定期確認

第6週 実験動物学 1（実験動物学総論～実験動物の管理学）

第7週 実験動物学 2（代表的な実験動物～代替法）/神経学的検査

第8週 薬理学

第9週 国試勉強方法の定期確認

第10週 産業動物（牛・小型反芻獣・馬）

第11週 産業動物（豚・鶏・畜産業とは）

第11週 生命倫理・動物福祉

第12週 基礎生物学

第13週 第2回模試 / 解説

第14週 輸液・輸血

第15週 国試勉強進捗の確認

第16週 前期試験

第17週 前期のまとめ・調べ学習

第18週 試験返却・試験の振り返り

【後期】

第19週 疾病看護学

第20週 繁殖学

第21週 第3回模試 / 解説

第22週 脳・神経

第23週 国試勉強方法の定期確認

第24週 栄養学

第25週 病理学

第26週 公衆衛生学

第 27 週 検査学

第 28 週 第 4 回模試 / 解説

第 29 週 泌尿器系

第 30 週 国試勉強方法の定期確認

第 31 週 後期試験

第 32 週 後期のまとめ・調べ学習

第 33 週 後期試験総括

第 34 週 最終確認問題演習

第 35 週 国家試験総括

授業の方法

座学にて知識の確認を行い、単元の終わりに問題演習を行う。

教材

愛玩看護師国家試験対策楽しく学べる参考書（EDUWARD Press、発行 2022 年 3 月）

評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。

内訳: 期末試験 80%（前期/後期試験）、授業への参画 20%

ただし、科目内での模擬試験は単位認定の必須条件とし、基準点に達しない場合は総合得点が 60% 以上であっても単位を認めない。

以上の評価方法については、初回の授業で学生に周知し、公平性を期す。

授業外での学習方法

事前学習: 問題演習を自主的に行う。

事後学習: 授業内容と自分の知識を比較し足りない知識に関してはまとめを作成する。

実務経験と授業科目の関係

獣医療臨床現場における実務経験を活かす。

動物看護学概論

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師国家資格の基礎となる動物看護学の成り立ちや理念、歴史的背景を理解し、専門職としての役割と責任を学ぶことを目的とする。獣医療および動物看護の発展過程、国内外における資格制度や職能団体の役割、動物看護理論の成立について体系的に学習する。また、獣医療倫理や動物看護倫理、動物福祉、QOL（生活の質）に関する知識を通して、動物と飼い主に寄り添う専門職として必要な価値観と倫理観を養う。さらに、愛玩動物看護師制度の成立経緯や社会的役割を理解し、動物看護学を探究する姿勢を身に付けることで、将来の臨床現場における実践の基盤を形成する。

科	動物看護師学科	教員	河島英二
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師 6 年
対象年次	3 年次	年間単位数	1 単位

目標

獣医療の歴史と概念、獣医療における動物看護学の理論と特徴について理解できる。
国家資格としての愛玩動物看護師の誕生への道のりを学び、動物看護の役割と概念について理解できる。

授業計画

- 1 回 獣医療の歴史と概念～獣医療の歴史
- 2 回 獣医療倫理 1
- 3 回 獣医療倫理 2
- 4 回 動物看護の歴史と概念 1
- 5 回 動物看護の歴史と概念 2
- 6 回 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い 1
- 7 回 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い 2
- 8 回 動物看護理論の成立過程 1
- 9 回 動物看護理論の成立過程 2
- 10 回 動物看護理論の成立 1
- 11 回 動物看護理論の成立 2
- 12 回 動物看護学と高等教育 1
- 13 回 動物看護学と高等教育 2
- 14 回 獣医療における動物看護学の理論と特徴(まとめ)
- 15 回 補講
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期期末試験返却、解説

- 18 回 国家資格 愛玩動物看護師誕生への道のり～認定動物看護師の誕生
- 19 回 動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生 1
- 20 回 動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生 2
- 21 回 愛玩動物看護師の職能団体 1
- 22 回 愛玩動物看護師の職能団体 2
- 23 回 動物看護とは 1
- 24 回 動物看護とは 2
- 25 回 動物看護における倫理 1
- 26 回 動物看護における倫理 2
- 27 回 動物にとっての福祉・健康・QOL1
- 28 回 動物にとっての福祉・健康・QOL2
- 29 回 看護動物に影響を与える環境要因 1
- 30 回 動物病院における動物看護師の役割
- 31 回 動物看護の探求
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 後期期末試験、返却解説
- 34 回 国家試験対策
- 35 回 愛玩動物看護師国家試験を終えて

授業の方法

講義形式

教材

EDUWARD Press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、教科書の該当範囲を読み、獣医療や動物看護に関する歴史・倫理・制度について基本用語や概念を整理する。事後学習として、授業内容をノートやレポートにまとめ、動物看護師の役割や倫理的課題について自分の考えを整理することで理解を深め、国家試験対策にもつなげる。

実務経験と授業科目の関係

診療経験を有しており、獣医療現場における動物看護師との連携やチーム獣医療の実践について具体的な事例を交えながら指導することができる。また、獣医療倫理や動物福祉、飼育主対応など、動物看護学の基盤

となる内容についても実践的な視点から解説することが可能である。そのため、学生は理論だけでなく現場で求められる動物看護師の役割や責任について理解を深め、専門職としての意識を養うことができる。

動物看護実習

授業の目的・概要

動物臨床看護学で学んだ疾患知識を基盤とし、実際の症例（学内飼育動物・同伴動物）を通じて、バイタルチェック、検査、投薬、周術期管理などの実践的スキルを習得する。また、カルテ記載や飼い主様対応を通じ、チーム医療の一員としての責任感とコミュニケーション能力を養う。

科	動物看護師学科	教員	寺鼻 友美/三輪 喬太
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半/ 獣医師 8 年
対象年次	3 年	年間単位数	2 単位

目標

・プロとしての身だしなみやカルテ記入、学内動物の健康管理といった臨床の基礎を徹底する。その上で、尿・便検査や各種臨床検査、投薬、輸液準備などの主要な看護技術を、「実施の根拠」と「正確な手技」の両面から習得します。さらに、手術の受付から滅菌準備、術中の麻酔モニター、術後の疼痛管理・覚醒確認、そして飼い主様へのお返しに至るまでの一連の周術期看護フローを理解し、チーム医療の一員として責任を持って一頭の動物をケアできる実践力を養う。

・眼科・皮膚・耳などの特殊検査や、X 線・超音波・心電図といった画像・循環器検査における「看護師の役割、準備、正確な保定」の完遂を目指す。食事指導やマイクロチップ、カテーテル管理などの処置スキルを深化させるとともに、主要な各系統疾患（呼吸器、循環器、消化器、内分泌、神経、救急等）に応じた具体的な看護手技、必要備品の選定、生体管理のポイントを網羅的に習得し学内飼育動物の継続的な健康管理を通じて臨床感覚を維持し、最終的には国家試験の実地問題をベースとした演習と試験対策を通じて、疾患知識と実践的な看護技術を統合させ、現場で即戦力となるための確固たる判断力と応用力を養う。

授業計画

- 1 回 授業について、実習について、生体取り扱い時の注意点、カルテ記入/
学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)、基本保定の復習(エリカラ・口輪含む)
- 2 回 排泄行動/強制排泄(尿検査・便検査)① 検査手技復習・検査概要
- 3 回 排泄行動/強制排泄(尿検査・便検査)② 応用

- 4回 手術動物の預かりからお返しまで(飼い主対応・犬舎準備・覚醒管理、痛みの評価等)①
- 5回 手術動物の預かりからお返しまで(飼い主対応・犬舎準備・覚醒管理 痛みの評価等)②
- 6回 手術動物の預かりからお返しまで(飼い主対応・犬舎準備・覚醒管理 痛みの評価等)③
- 6回 滅菌・手術準備/学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)① 基礎
- 7回 滅菌・手術準備② 一連の流れを実施
- 8回 滅菌・手術準備復習(実施)
- 9回 術中管理/麻酔モニターについて① 基礎
- 10回 術中管理/麻酔モニターについて② 応用
- 11回 輸液準備・皮下点滴 静脈点滴(ぬいぐるみを用いた実技)①
- 12回 輸液準備・皮下点滴 静脈点滴(ぬいぐるみを用いた実技)②
- 13回 輸血 採血 注射
- 14回 前期まとめ(試験対策：国家試験の実地試験をベースで作成する)
学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)
- 15回 前期期末試験
- 16回 自主学习課題 国試対策・実技復習(精密画像検査)
- 17回 前期期末試験返却/学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫・混合ワクチン)
- 18回 眼科検査(検査と準備・保定)
- 19回 皮膚検査/耳検査(検査と準備・保定)
- 20回 療法食・食事指導①
- 21回 療法食・食事指導②
- 20回 カテーテル・マイクロチップ
- 21回 X線/超音波検査の看護師の役割/学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)
- 22回 心電図検査・血圧測定における動物看護師の役割
- 23回 呼吸器疾患の看護/循環器疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
- 24回 消化器疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
- 25回 内分泌疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)
- 26回 血液疾患・内分泌疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
- 27回 皮膚疾患・感覚器疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
- 28回 神経疾患・整形疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
- 29回 排泄障害疾患・生殖器疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
- 30回 救急疾患の看護(看護師として必要なスキル・処置用意・生体管理)
学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)/実地対策
- 31回 国試対策/実地対策

- 32 回 後期まとめ(試験対策：国家試験の実地試験をベースで作成する)/
学内飼育動物管理(健康管理・内部外部寄生虫)
- 33 回 後期試験
- 34 回 後期試験返却/復習/国家試験対策
- 35 回 国家試験対策

授業の方法

座学・実習

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準書教科書 9 巻

⇒(監修者：岩上大吾 小田民美

発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 2 月 7 日)

愛玩動物看護師カリキュラム準書教科書 7 巻

⇒(監修者：佐野忠士 石岡克己

発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 2 月 7 日)

動物看護実習テキスト

⇒(編集委員：山下真理子 若松あゆみ 石橋妙子 関智恵子

発行所：株式会社インターズー 発行年：2019 年 3 月 15 日)

評価の方法

試験 70%、授業への参画 10%、実習スキル 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として、次回の内容のタイトルを伝えるので該当教科書ページを読んでおく。自身で調べておく。

事後学習として、配布プリントで復習を行い不明点は調べるもしくは次回質問をさせる。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務、国試受験の経験から動物病院で働く際の知識と心構え、勉強のフォロー勉強方法を伝えることができる。

動物看護総合実習

授業の目的・概要

本授業は、動物看護に関する基礎的知識と態度を踏まえ、動物病院や関連施設におけるインターンシップを通して実践的な動物看護能力を養うことを目的とする。事前学習では実習先の業務内容や接遇、職業倫理を理解し、円滑に現場実習へ移行できる準備を行う。インターンシップ期間中は、獣医療現場における動物看護業務を体験し、チーム医療の一員としての役割や責任を学ぶ。事後学習では実習内容の振り返りと分析を行い、課題の明確化と改善を図ることで、動物看護師としての実践力と職業意識の定着を目指す。

科	動物看護師学科	教員	三輪
コース	動物特進コース	教員の実務経験	○
対象年次	3 年次	年間単位数	3 単位

目標

- ・動物看護の現場における基本的な業務内容と役割を理解し、実践できる
- ・獣医療チームの一員として必要な接遇やコミュニケーション能力を身に付ける
- ・インターンシップでの経験を振り返り、課題を整理し改善点を考察できる
- ・職業倫理を踏まえ、動物看護師としての責任感と職業意識を身に付ける

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業目的・評価方法・実習全体の流れ）
- 第2週 動物看護実習の心構えと職業倫理
- 第3週 実習先の理解と業務内容の事前学習
- 第4週 実習マナー・接遇・報連相の基本
- 第5週 インターンシップ開始（現場実習）
- 第6週 インターンシップ

第 7 週	インターンシップ
第 8 週	インターンシップ
第 9 週	インターンシップ
第 10 週	インターンシップ
第 11 週	インターンシップ
第 12 週	インターンシップ
第 13 週	インターンシップ
第 14 週	インターンシップ
第 15 週	インターンシップ
第 16 週	インターンシップ
第 17 週	インターンシップ
第 18 週	インターンシップ
第 19 週	インターンシップ
第 20 週	インターンシップ
第 21 週	インターンシップ
第 22 週	インターンシップ
第 23 週	インターンシップ
第 24 週	インターンシップ
第 25 週	インターンシップ
第 26 週	インターンシップ
第 27 週	インターンシップ
第 28 週	インターンシップ
第 29 週	インターンシップ
第 30 週	インターンシップ
第 31 週	実習報告書作成指導
第 32 週	実習内容の整理とケーススタディ
第 33 週	実習発表準備

第 34 週 実習成果発表会

第 35 週 総括・振り返り・評価

授業の方法

事前の説明や事後の振り返り以外は、実習先での実践となる。

教材

特になし。

評価の方法

評価表 30%、レポート提出 30%、実習日誌 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、実習先の業務内容や動物看護業務の基本、接遇マナーおよび職業倫理について教科書や資料を用いて整理し、実習に必要な基礎知識を身に付ける。事後学習として、インターンシップでの経験を振り返り、実習日誌や報告書にまとめることで自己の課題を明確化し、今後の学習や実践力向上につなげる。

実務経験と授業科目の関係

本授業は動物病院等でのインターンシップを含む実践的科目であり、獣医師として臨床現場を熟知する担当教員がクラス担任・責任者として指導にあたることで、教育内容の信頼性と安全性が担保される。獣医師の立場から、医療現場における動物看護業務の実践やチーム医療における役割分担、さらには緊急時対応や倫理的判断について具体的な指導が可能である。また、実習先との連携や評価においても専門的視点を活かし、学生が現場で求められる実践力と職業意識を適切に身に付けられるよう総合的に支援する。

動物医療関連法規Ⅲ

(授業概要)

本授業では、愛玩動物看護師として業務を遂行するうえで必要となる動物関連法規の知識を修得し、法令を遵守した適切な動物看護を実践できる能力を養うことを目的とする。獣医師法、愛玩動物看護師法、獣医療法を中心に、動物医療従事者の役割や責務、業務範囲について理解を深める。また、身体障害者補助犬法、医薬品医療機器等法（薬機法）、麻薬及び向精神薬取締法、廃棄物処理法、外来生物法などの関連法規について学び、動物医療現場における法令遵守の重要性を理解する。さらに、動物の適正管理や公衆衛生に関わる法制度について学び、国家試験対策も踏まえながら実践的な法的知識の修得を目指す。

科	動物看護師学科	教員	井田 竜馬
コース	動物看護師コース	教員の実務経験	○
対象年次	3 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

獣医師法、獣医療法、愛玩動物看護師法など獣医療に関係する法律を理解できるようになる。

後期

薬機法、麻薬取締法、廃棄物処理法など主に薬事衛生分野に関係する法律を理解できるようになるとともに、動物愛護法や狂犬病予防法についてはしっかりと復習し理解できるようになる。

授業計画

- 1 回 法令の概要、犬猫飼育頭数など
- 2 回 獣医師法（1）獣医師法の概要
- 3 回 獣医師法（2）獣医師の任務、権利（主に第 17 条飼育動物診療業務の制限）
- 4 回 獣医師法（3）診療とは
- 5 回 獣医師法（4）獣医師の義務（無診察深慮の禁止）
- 6 回 獣医師法（5）獣医師の義務（応召義務、カルテの保存義務など）
- 7 回 獣医師法（6）免許取消や罰則など
- 8 回 愛玩動物看護師法（1）法の概要
- 9 回 愛玩動物看護師法（2）業務内容
- 10 回 愛玩動物看護師法（3）欠格事由など
- 11 回 前期復習

- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却・解説
- 14回 獣医療法（1）法の概要
- 15回 獣医療法（2）飼育動物診療施設の開設など
- 16回 獣医療法（3）獣医療に関する広告制限その1
- 17回 獣医療法（4）獣医療に関する広告制限その2
- 18回 身体障害者補助犬法（1）法の概要
- 19回 身体障害者補助犬法（2）身体障害者補助犬の定義
- 20回 身体障害者補助犬法（3）アクセスの保証など
- 21回 薬機法（1）法の概要
- 22回 薬機法（2）劇薬と毒薬の保管など
- 23回 麻薬取締法 麻薬の保管、麻薬施用者制度など
- 24回 廃棄物処理法（1）法の概要
- 25回 薬機法（2）医療廃棄物の定義、バイオハザードマークなど
- 26回 後期復習
- 27回 後期試験
- 28回 後期試験返却・解説
- 29回 外来生物法
- 30回 ワシントン条約、ラムサール条約
- 31回 動物愛護法の復習（1）
- 32回 動物愛護法の復習（2）
- 33回 狂犬病予防法の復習（1）
- 34回 狂犬病予防法の復習（2）
- 35回 3年総復習

授業の方法

講義形式を中心に進めていく。

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

長らく動物看護の分野の法律に関わる業務を行っており、愛玩動物看護師免許を所有している実務者でもある。双方の経験を元に、愛玩動物看護師国家試験の出題範囲を中心に法律分野について詳しく解説していく。

動物行動学

授業の目的・概要

動物を扱う職業にとって不可欠である動物の行動・心理とコミュニケーションについて学ぶ。また行動を導くための学習理論について理解を深め、近年問題意識が高まっている犬と猫の問題行動について詳しく学び、その予防や初期対応の知識を身につける。

科	動物看護師学科	教員	中野 あや
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	獣医師 (一般臨床と行動専門科各10年)
対象年次	3年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・動物行動学の基礎として、維持行動、社会行動などの行動の発現と発達について理解する
- ・犬と猫のコミュニケーション方法とその意味、行動の誘発刺激と動機づけについて理解する

後期

- ・動物の行動を導くための学習理論について理解し、獣医療で実施される行動診療の流れを学ぶ
- ・犬と猫の問題行動について学び、臨床でよく出会う問題行動の予防と初期指導の知識を身につける

授業計画

第1回 動物行動学とは、導入「無駄吠え」

第2回 猫のコミュニケーション・猫の行動観察（3章-3）

第3回 犬のコミュニケーション・犬の行動観察（3章-3）

第4回 動物行動学の歴史、ダーウィンとローレンツ（1章-1）

第5回 行動の進化と適応・家畜化（1章-2）

第6回 維持行動（2章）

- 第7回 社会行動 (3章)
- 第8回 前期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第9回 刺激と情動と動機づけ (4章-1)
- 第10回 行動に影響を与える要因：遺伝と環境 (5章-2)
- 第11回 行動の発達と社会化期 (5章-1)
- 第12回 学習理論①馴化・感作と脱感作・般化 (5章-3)
- 第13回 学習理論②古典的条件づけ (5章-4)
- 第14回 学習理論③オペラント条件づけ (5章-4)
- 第15回 前期のまとめ、復習とディスカッション
- 第16回 前期試験
- 第17回 採点期間のため読書課題
- 第18回 前期試験返却・試験の振り返り
- 第19回 学習理論の復習：古典的条件づけ・オペラント条件づけ
- 第20回 学習理論④強化・消去・行動形成 (5章-4)
- 第21回 問題行動の定義と社会の問題 (6章-1)
- 第22回 行動診療とは、正の罰について (6章-2,3)
- 第23回 問題行動①犬猫の排泄トラブル (7章-3)
- 第24回 問題行動②犬猫の不安障害 (7章-2)
- 第25回 後期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第26回 問題行動③犬猫の攻撃行動 (7章-3)
- 第27回 問題行動④犬猫の転位行動・常同行動 (7章-4)
- 第28回 問題行動の予防・快適な環境
- 第29回 問題行動⑤動物病院における問題行動
- 第30回 近年の動物病院の取り組み：オヤツ外食とハズバンダリートレーニング
- 第31回 行動診療で用いる その他の療法 (6章-4)
- 第32回 グループディスカッション：「無駄吠え」

第 33 回 後期試験

第 34 回 採点期間のため読書課題

第 35 回 後期試験返却・試験の振り返り

授業の方法

授業用プリントへの書き込み、板書、テキスト教材を用いた講義、犬猫生体の行動観察

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(6巻)、授業用プリント、資料動画

評価の方法

試験 80%（自宅課題の評価を含む）、授業への参画 20% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前事後学習：各授業回の教科書指定範囲を読むこと、参考書籍の読書、授業時間外の質問対応

実務経験と授業科目の関係

獣医行動診療科認定医 2023 年取得。問題行動専門の往診クリニック院長であり講師・講演にも従事。

動物疾病看護学 C

授業の目的・概要

本授業では、愛玩動物看護師として必要な感染症に関する知識を修得し、疾病の予防、早期発見および適切な看護に活用できる能力を養うことを目的とする。犬・猫の主要な感染症をはじめ、産業動物、実験動物、エキゾチックペットおよび野生動物にみられる感染症について学び、それぞれの病原体の特徴、感染経路、症状および予防法を理解する。また、人獣共通感染症や食中毒について学び、公衆衛生との関連性を理解するとともに、動物から人への感染防止対策について考察する。さらに、免疫介在性疾患など関連疾患についても学び、動物医療現場における疾病看護の基礎的知識と実践力の修得を目指す。

科	動物疾病看護学 C	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師歴 35 年
対象年次	3 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・犬、猫および各種動物の主要な感染症について説明できる。
- ・人獣共通感染症および食中毒に関する基礎知識を身に付ける。
- ・感染症の予防および早期発見に必要な観察力を身に付ける。
- ・動物医療現場における感染対策と衛生管理を実践できる。

授業計画

前期

- 1 回 犬と猫の重要な感染症（1）：ウィルス性感染症（1）
- 2 回 犬と猫の重要な感染症（2）：ウィルス性感染症（2）
- 3 回 犬と猫の重要な感染症（3）：ウィルス性感染症（3）
- 4 回 犬と猫の重要な感染症（4）：細菌性感染症（1）
- 5 回 犬と猫の重要な感染症（5）：細菌性感染症（2）
- 6 回 犬と猫の重要な感染症（6）：真菌性感染症その他
- 7 回 その他の犬と猫の感染症：（上記以外の）ウィルス性/細菌性/真菌性感染症

- 8回 産業動物の感染症（１）：ウィルス性感染症（１）
- 9回 産業動物の感染症（２）：ウィルス性感染症（２）
- 10回 産業動物の感染症（３）：細菌性感染症（１）
- 11回 産業動物の感染症（４）：細菌性感染症（２）/その他
- 12回 実験動物の感染症（１）：ウィルス性感染症
- 13回 実験動物の感染症（２）：細菌性感染症
- 14回 エキゾチックペットと野生動物の感染症（１）：ウィルス性/細菌性（１）
- 15回 エキゾチックペットと野生動物の感染症（２）：ウィルス性/細菌性（２）

後期

- 16回 エキゾチックペットと野生動物の感染症（３）：真菌性/その他
- 17回 人獣共通感染症（１）：ウィルス性感染症（１）
- 18回 人獣共通感染症（２）：ウィルス性感染症（２）
- 19回 人獣共通感染症（３）：ウィルス性感染症（３）
- 20回 人獣共通感染症（４）：ウィルス性感染症（４）
- 21回 人獣共通感染症（５）：細菌性感染症（１）
- 22回 人獣共通感染症（６）：細菌性感染症（２）
- 23回 人獣共通感染症（７）：細菌性感染症（３）
- 24回 人獣共通感染症（８）：細菌性感染症（４）
- 25回 人獣共通感染症（９）：寄生虫性感染症（１）
- 26回 人獣共通感染症（10）：寄生虫性感染症（２）
- 27回 食中毒（１）：ウィルス性食中毒
- 28回 食中毒（２）：細菌性食中毒
- 29回 食中毒（３）：その他の食中毒
- 30回 その他の感染症：免疫介在性疾患など。

授業の方法

教科書を基とした自作の p.p のテキストを利用した講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

教材

主体は自作テキストであるが、参考書籍として、

・EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 「公衆衛生学」

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3 「動物感染症学」
- ・ 獣医学系諸教材として「獣医公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ」（文永堂出版）、「獣医微生物学第4版」（文永堂出版）を使用

評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の10%で、残りの60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は $100 \times \text{出席率}$ をもって点数化し、さらにそれを全評価点の10%とする。
- ・ 全評価点 = $\text{出席点} \times 0.1 + \text{小テスト平均点} \times 0.3 + \text{定期試験点数} \times 0.6$ とし、60点以上を合格とする。

授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

実務経験と授業科目の関係

臨床獣医師であったため、感染症は一般的な診療対象であった。また、産業動物や野生動物の分野も、大動物実習（野外含む）や動物園での臨床実習を経験しているため、実際に診療した経験を持つ。

野生生物学/動物生活環境学

授業の目的・概要

本授業では、野生生物の生態や保全に関する基礎知識と、動物の生活環境を適切に整備・管理するための実践的な知識を修得することを目的とする。野生動物の種類や分布、外来種問題、絶滅危惧種、生物多様性保全、鳥獣被害対策などについて学び、自然環境と動物の関わりを理解する。また、動物園・水族館や野生動物の救護活動についても取り上げ、動物の保全と福祉の視点を養う。さらに、犬・猫の飼育環境整備、シニア動物の生活管理、ペット共生社会における課題について学び、動物愛護センターやシェルター、教育・訓練施設などの役割を理解する。加えて、動物飼育に関するマナーや法制度について学び、適切な動物との共生社会の実現に寄与できる基礎的能力を身に付ける。

科	野生生物/動物生活環境学	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師歴 35 年
対象年次	3 年	年間単位数	2 単位

目標

1. 野生生物学

- ・人と野生生物との共生について学んでいくが、常に問題は人間側にあるのであり、野生生物ではないということを理解しておく必要がある。従って、現状であれ今後であれ、変化すべきは常に本来人間側の生活なのであって、どこまで野生生物の生活と折り合いをつけていくのか、という謂わば加害者の視点から理解を深めることができる。

2. 動物生活環境学

- ・こちらはペットとの共生に関する分野である。課題は2分される。つまり、片や「動物と人」の関係、片や「人と人」との関係。「動物との関係を如何に円滑に維持するか」という点と「そのために他人とのトラブルを如何に避けるか」という点の2つの課題をどのようにしてバランス良く消化するか。常に学習者自身がその両側に立たされる立場として、より良い解決方法を模索しながら理解を深めていくことができる。

授業計画

前期

1. 野生生物学

- 1回 野生生物学（1）：野生動物と野生動物学
- 2回 野生生物学（2）：野生動物の種類と生息分布 / 外来種（1）
- 3回 野生生物学（3）：外来種（2） / 絶滅危惧種とレッドリスト（1）
- 4回 野生生物学（4）：絶滅危惧種とレッドリスト（2） / 生物多様性の保全（1）
- 5回 野生生物学（5）：生物多様性の保全（2） / 鳥獣被害の現状と対策（1）
- 6回 野生生物学（6）：鳥獣被害の現状と対策（2） / 野生動物の救護（1）
- 7回 野生生物学（7）：野生動物の救護（2） / 野生動物の病気・事故
- 8回 野生生物学（8）：動物園・水族館
- 9回 野生生物学（9）：家畜への道

2. 動物生活環境学

- 10回 飼育環境整備（1）：法律と基準 / 犬の飼育環境整備（1）
- 11回 飼育環境整備（2）：犬の飼育環境整備（2） / 猫の飼育環境整備（1）
- 12回 飼育環境整備（3）：猫の飼育環境整備（2） / ペット共生の現状
- 13回 飼育環境整備（4）：犬・猫の環境整備・管理方法 1
- 14回 飼育環境整備（5）：犬・猫の環境整備・管理方法 2
- 15回 飼育環境整備（6）：シニアペットの暮らし方

後期

- 16回 ペットツーリズム・ドッグラン（1）：現状と実施方法
- 17回 ペットツーリズム・ドッグラン（2）：ペット同伴宿泊施設 / ドッグランの環境整備
- 18回 ペットツーリズム・ドッグラン（3）：ペット関連のイベント活動
- 19回 保護収容施設（1）：動物愛護センター等の役割
- 20回 保護収容施設（2）：動物収容保護施設での飼育管理
- 21回 保護収容施設（3）：シェルターの役割とシェルターメディスン
- 22回 教育・訓練施設（1）：ペット教育の課題と愛玩動物看護師の役割
- 23回 教育・訓練施設（2）：社会化トレーニング / パピークラス
- 24回 教育・訓練施設（3）：訓練施設の種類
- 25回 動物介在教育施設（1）：法律 / 施設の環境整備・管理 1
- 26回 動物介在教育施設（2）：施設の環境整備・管理 2
- 27回 ペット飼育のマナー（1）：必要性和目的 / 歴史
- 28回 ペット飼育のマナー（2）：地域における飼育マナーの違い / 条例
- 29回 ペット飼育のマナー（3）：種別教育マナー 1

30 回 ペット飼育のマナー（４）：種別教育マナー２ / ペット保険

授業の方法

教科書を基とした自作 p.p のテキストを利用した講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

教材

主体は自作テキストであるが、参考書籍として、

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6 「比較動物学」、
- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10 「動物生活環境学」
- ・ 野生生物学は、獣医学系教材として「野生動物学」（文永堂出版）を使用。

評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15 分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の 30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の 10%で、残りの 60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は $100 \times \text{出席率}$ をもって点数化し、さらにそれを全評価点の 10%とする。
- ・ 全評価点 = $\text{出席点} \times 0.1 + \text{小テスト平均点} \times 0.3 + \text{定期試験点数} \times 0.6$ とし、60 点以上を合格とする。

授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

実務経験と授業科目の関係

動物病院で働く臨床獣医師は犬猫ばかりではなく、市街の野生動物の治療も行わなければならない。従って、動物病院勤務と言えども、野生動物に関する知識は必須である。片やペットとの共生についてはまさに本業の一部であり、日常的に取り組んできた分野と言えよう。

幼齢・高齢ケア

授業の目的・概要

動物病院で多く対応することとなる高齢動物および幼齢動物について、しつけ、予防指導、健康管理、頻発疾患の理解、自宅でおこなえるケアなどについて理解を深め、飼主への説明に必要な知識を増やす。また、近年問題意識が高まっている認知症や高齢期の緩和医療、看取りについて学ぶ。

科	動物看護師学科	教員	中野 あや
コース	動物看護特進ゼミ	教員の実務経験	獣医師 (一般臨床と行動専門科各10年)
対象年次	3年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・幼齢動物の頻発疾患と社会化についての学びを通して、心身の健康管理について学ぶ
- ・幼齢期の適正飼養について飼主に指導するスキルを身につける

後期

- ・高齢動物の頻発疾患と健康管理、介護、緩和医療と看取りについて具体的な知識を増やす
- ・高齢期の動物と暮らす飼い主の心に寄り添う声かけや自宅ケアのスキルを身につける

授業計画

第1回 総論・授業についてガイダンス

第2回 子犬・子猫の発達ステージ

第3回 子犬・子猫の飼育管理

第4回 心の発達と社会化期と行動（犬）

第5回 ワクチネーションと社会化期のジレンマ

第6回 心の発達と社会化期と行動（猫）

- 第 7 回 不妊手術の心身の発達への影響
- 第 8 回 前期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第 9 回 子犬に多い疾患：兆候と予防
- 第 10 回 子犬外来とパピークラス①
- 第 11 回 子犬外来とパピークラス②
- 第 12 回 パピークラス後の若犬クラスを作ろう
- 第 13 回 子猫に多い疾患：兆候と予防
- 第 14 回 子猫外来とキトンクラス
- 第 15 回 前期のまとめ、復習とディスカッション
- 第 16 回 前期試験
- 第 17 回 採点期間のため読書課題
- 第 18 回 前期試験返却・試験の振り返り
- 第 19 回 高齢期のライフステージ
- 第 20 回 高齢犬の予防医療：未病とホームケア
- 第 21 回 高齢犬に多い疾患①身体疾患
- 第 22 回 高齢犬の疾患②認知症
- 第 23 回 高齢犬の疾患と行動
- 第 24 回 高齢犬の介護①
- 第 25 回 高齢犬の介護②
- 第 26 回 後期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第 27 回 高齢犬における慢性疾患の治療提案
- 第 28 回 高齢猫に多い疾患①身体疾患
- 第 29 回 高齢猫に多い疾患②行動疾患
- 第 30 回 高齢猫の介護①
- 第 31 回 高齢動物の緩和医療と看取り
- 第 32 回 高齢期のグリーフケア

第 33 回 後期試験

第 34 回 採点期間のため読書課題

第 35 回 後期試験返却・試験の振り返り

授業の方法

授業用プリントへの書き込み、板書、教材プリント、動画視聴

教材

授業用プリント、参考書籍

評価の方法

試験 80%（自宅課題の評価を含む）、授業への参画 20% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習：各授業回の授業プリントによる復習、教科参考書籍の読書、授業時間外の質問対応

実務経験と授業科目の関係

一般臨床における子犬教室や子犬指導および高齢動物の診療、行動診療科における問題行動の診療経験。

臨床内科外科実習

授業の目的・概要

本授業では、臨床現場における内科・外科領域の基本的な知識と技術を統合的に修得し、愛玩動物看護師として必要な実践力を養うことを目的とする。各種検査、手術および治療に関する基礎知識を復習するとともに、実習を通して臨床現場における動物看護の流れを理解する。また、症例対応やチーム医療における役割を意識しながら、適切な補助業務および観察力を身に付ける。さらに、一斉インターンや振り返りを通して実践経験を深め、自己課題を明確化することで、臨床能力の向上と国家試験に対応できる総合的な知識・技術の定着を図る。

科	動物看護師学科	教員	西野 貴行 市川 華香
コース	動物看護師特進ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	3 年	年間単位数	3 単位

目標

- ＊内科・外科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ。術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し 安全な手術の実施に必要な知識・技術を習得する。
- ＊現場で働くにあたっての心構えを徹底的に習得する。

授業計画

【前期】

- 第1回 授業について、昨年度行った手術・検査について復習
- 第2回 座学・内科外科実習
- 第3回 座学・内科外科実習
- 第4回 座学・内科外科実習
- 第5回 座学・内科外科実習
- 第6回 座学・内科外科実習
- 第7回 座学・内科外科実習
- 第8回 座学・内科外科実習

- 第9回 一斉インターン
- 第10回 一斉インターン
- 第11回 座学・内科外科実習
- 第12回 座学・内科外科実習
- 第13回 座学・内科外科実習
- 第14回 座学・内科外科実習
- 第15回 座学・内科外科実習
- 第16回 前期試験
- 第17回 試験返却・試験の振り返り
- 第18回 座学・内科外科実習
- 【後期】**
- 第19回 座学・内科外科実習
- 第20回 座学・内科外科実習
- 第21回 座学・内科外科実習
- 第22回 座学・内科外科実習
- 第23回 座学・内科外科実習
- 第24回 座学・内科外科実習
- 第25回 座学・内科外科実習
- 第26回 座学・内科外科実習
- 第27回 座学・内科外科実習
- 第28回 座学・内科外科実習
- 第29回 座学・内科外科実習
- 第30回 座学・内科外科実習
- 第31回 後期試験
- 第32回 試験返却・試験の振り返り
- 第33回 座学・内科外科実習

第 35 回 1 年の振り返り

授業の方法

* 座学、検査実習、手術実習

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻・8 巻

評価の方法

* 期末試験 20%、授業への参画 50%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

* 実習の振り返りレポートを次回の授業までに提出

実務経験と授業科目の関係

* 第一線の現場で働いている経験から、愛玩動物看護師が現場で何を求められているか授業で学ぶことができる。